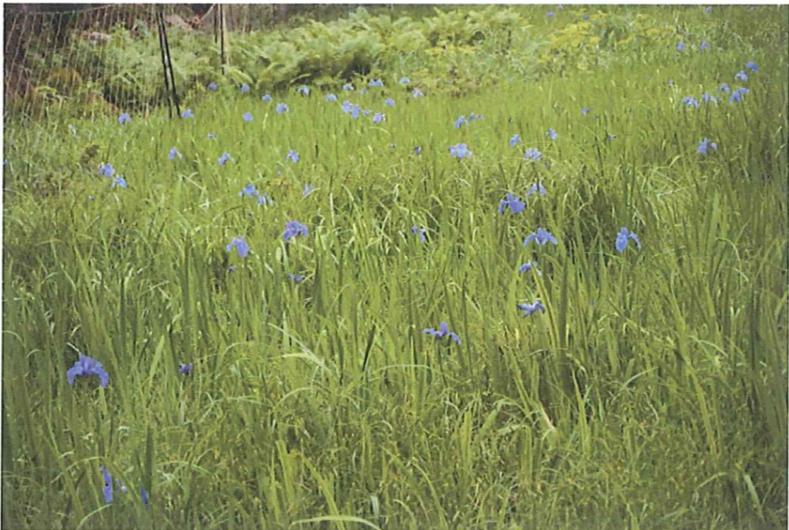


ふるさと再発見！ひょうごの至宝カキツバタ群落と

蘇武岳・サナの滝を巡る旅

1. 開催概要

「灯台もと暗し」の例えにも有る通り地元に住んでいても、「しらなう」「見たことが無い」と言うことは往々にしてあることです。勿論それは地元を通る林道や周辺の貴重な植物、名勝や景観においても例外ではありません。そこで今回、このような見過ごされることの多かった地元の貴重な自然と景観、そしてそれらを繋ぐ林道に視点を当て地元、但馬地域に住む人達を中心に県の天然記念物に指定されている銚子ヶ谷湿原のカキツバタ群落や大自然が作り出した美しい滝や渓谷、植村直己が登った事でも知られる蘇武岳に登り、更には蘇武岳周辺に広がるブナの原生林など誇るべき地元の宝とも言える、ありのままの自然を再認識して頂くと同時に自然保護と林道建設の関わりや果たすべき役割など、林道への理解と利用向上を目的として企画するに至りました。



14時55分	14時45分	14時40分	13時30分	13時45分	11時55分	11時20分	11時05分	11時00分	10時45分	10時35分	10時10分	10時00分
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

2. 行程

村岡地域局集合 太田常務の催行の挨拶の後、近藤講師から植物の葉についての講義を聞く
村岡地域局発 あいにくの雨模様の中ツアー開始！ 林道上でノウサギを見つけ歓声が上がると蘇武岳展望台着 雨脚が強くなり蘇武登山を行うか協議。参加者の希望により2班に分かれて行動する事になった。
①蘇武登山組 ②ブナ林散策の2班に分かれてツアー開始！
①蘇武岳山頂到着 残念ながら雨で眺望は楽しめなかった
①蘇武岳下山開始 ②班の待つブナ林へ向けて出発！
① ②班と合流 雨の中、しっかりとしたブナ林を楽しんでいただきました
銚子ヶ谷湿原カキツバタ群落着 四千年前より変わらぬ姿で迎えてくれる濃紺の花が美しかった。バスに戻り昼食タイム
サナの滝に向け出発
サナの滝到着 前日からの雨でいつもの清楚な滝と言うイメージは無く濁流と化していた。ここで記念撮影
サナの滝発 女郎滝に向け出発
女郎滝到着 サナの滝の豹変ぶりとは違っていつものような優しい姿を見せてくれた
村岡地域局到着 解散

村岡地域局到着 解散

3. 総評(今回のツアーにおける反省と課題)

今回のツアーは県南部を襲った前日の大雨により4名のキャンセルが発生しましたが一部行程を変更して実施いたしました。ただ梅雨時期の開催のため当日も雨に見舞われ残念ながら蘇武登山は希望者のみで行わざるをえませんでした。滑りやすい登山道が雨でぬかるみ、更に滑りやすくなっていたことに主催者として出来る限りの注意を払い、ロープを張るなどの事故防止策を講じたことで誰一人怪我をすることなくツアーを終える事が出来ました。天候と言う変えようもない自然現象と向き合いながら、このようなツアーを計画、実行する為には平素から不測の事態を想定した対応策の構築と事前準備が欠かせないと感じました。ただ今回このような悪天候の下、実施されたツアーにも関わらず参加いただいた皆様方から頂戴したメッセージには批判的な物は一切なく、むしろ好意を持って受け入れられたと思われる内容が多数書かれていた事には驚かされました。おそらく事故が無かったこと、車内や現地で行われた近藤講師による絶妙な説明とトクによるものが大きかったのではないかと分析しています。

見どころ

サナの滝



小城溪谷を代表する名瀑。落差はおおよそ10m。激しい自然の中にひっそりと咲く一輪の花にも似た優しさを醸し出しています。黒岩と白い水流が美しいです。

カキツバタ



4000年以上も前から自生している銚子ヶ谷のカキツバタ群落。林道建設の際に発見され、この湿原を守るため道は迂回しています。県天然記念物です。

蘇武岳



標高1074m。展望台より簡単に登れる名山。冒険家・植村直己も少年時代に登っていたそうです。山頂からは神鍋高原一帯、遠く日本海がみえることも。



妙見・蘇武、三川線ツーリズム 展望台から蘇武岳は約25分のらくらく歩き。晴れた空の下、広々とした頂上でおぼろげな山頂からはブナが広がる森の中を散策。途中林道へ下り、バスでカキツバタ群落へ。七月は満開の季節。今年はどれくらい色づいているかな。カキツバタ観賞の後は、しばらく林道を走り林道三川線へ。途中下車して、サナの滝まで歩こう。急坂を下ると原生林の中をつたうサナの滝。

バス移動 徒歩予定

5分 群衆へ

約1時間の山歩き

蘇武岳 1074m

蘇武岳展望台

妙見・蘇武線

香村

大野

香村